

フロレンス・ナイチンゲールの著述をマーガレット・フラーとの比較から読み解く

木村正子

1 はじめに

本論は、クリミア戦争時の看護活動における英雄フロレンス・ナイチンゲール (Florence Nightingale, 1820-1910) とアメリカの超越主義作家マーガレット・フラー (Margaret Fuller, 1810-50) の著述の比較を通して、両者が共通して追究したものを読み解いていくものである。両者は同時代を共有するものの、公的活動の時期・国・ジャンルなどが異なるゆえに、これまで比較研究の対象となる機会が希少であったが、本研究により、ナイチンゲールがフラーを追う形で両者の活動が合わせ鏡のような軌跡を辿ることが明らかになる。

2 サンドからの影響

ナイチンゲールとフラーの著述に関する比較研究には、1991年のエレイン・ショウォルター (Elaine Showalter) による論考があるが、両作家にインスピレーションを与えたフランスの女性作家ジョルジュ・サンド (George Sand, 1804-76) の作品との関わりに対する考察が不十分である。ショウォルターによると、ナイチンゲールはフラーの『19世紀の女性』 (*Woman in the Nineteenth Century*, 1845) からの影響で「カサンドラ」 (“Cassandra,” 1852) を執筆したと指摘しているが (312)、実際はナイチンゲールとフラーは個々にサンドの作品から影響を受けて、自作品に昇華したと考えられる。まずナイチンゲールの「カサンドラ」の元原稿は小説スタイルで、後にエッセイスタイルに改変されたという経緯があるが、サンドの『レリア』改訂版 (*Lélia*, 1839) からの引用がなされている。またその習作にあたるスケッチ「イングランドの家族の物語」を紐解けば、や『スピリディオン』 (*Spiridion*, 1839) からの示唆が随所に見られる。さらにナイチンゲール自身がサンドの作品に傾倒している旨を 1839年の書簡に記しているのである。フラーの著述にはこのような引用や示唆はない。

一方フラーのサンドへの敬愛については、『19世紀の女性』における記述が知られているが、時期的にナイチンゲールの記録の方が先行しており、サンドからフラーを経由してナイチンゲールへとレガシーが受け継がれたわけではない。もしフラーの影響を受けたとすれば、「カサンドラ」を小説スタイルからエッセイスタイルに改変した点に絞られるが、作品の内容は全く変更されていないので、ナイチンゲールにインスピレーションを与えたのは直接サンドの作品からであると判断できる。

3 ナイチンゲールとフラーの著述に見られる共通点

ナイチンゲールとフラーは 1847年 11月にイタリアで面会しているが、以後の交流記録はなく友人という関係にも至らなかったようだ。しかし両者の活動を追うと、その軌跡はナイチンゲールがフラーの後を追う形で相似形を描くように類似している。大きな流れとして、サンドからの影響による執筆活動、旅行による異文化体験、旅行記執筆、そして外国での戦時看護活動参加に至る。さらに活動スタイルのみならず、その内容ひいては思想の基盤となる要素にも類似点が見られるのである。

フラーはボストン時代に『五大湖の夏』 (*Summer on the Lakes*, 1843) を出版し、ネイティブアメリカンの生活を詳細に記述しているが、ボストン人から見れば未開とみなされる文化に魅了されていることを明言している。この異文化体験記で注目すべき点は、実際にフラーが現地で見聞きしたものの記録とともに、フラーの意識の中に浮かんだビジョンが描写されていることである。つまり現前の事象ではなく過去の出来事やフラーのイマジネーションが混合しているものとなる。ナイチンゲールの場合、1849-50年のエジプト旅行の際に家族あてに送った手紙が後に「エジプトからの手紙」として私家版印刷されている (1854年に印刷予告)。内容は日々の記録のほか、遺跡巡りの折に得た着想をまとめたものであるが、収録されているエジプト年代記は明らかにナイチンゲールの空想の産物であることがすでに指摘されている (Calabria 133)。これらの点から、ナイチンゲールとフラーはともに古代の、そして旧式の文化に惹かれ、そこに自身のイマジネーションを融合させたフィクションの世界に遊ぶという特徴がみられるわけだが、さらに掘り下げていくと、両者のビジョンにはアンチフェミニスト的な要素が含まれることが浮き彫りになる。

ナイチンゲールとフラーはショウォルターから「フェミニスト的知識人」 (312) と位置づけられているが、両者ともに当時の女性の権利運動からは距離を置き、社会システムの改革を声高に訴えることはない。むしろ社会システムはそのままに、男性の意識改革を希求し、女性を男性の対等なパートナーとして認めることを第一の目

標としているのである。ナイチンゲールは「エジプトからの手紙」においてラムセス2世と妃ネフェルタリに注目し、夫婦の協働が理想的な男女関係を構築する点に強く惹かれている。これは『19世紀の女性』において、古代ギリシアのクセノポンの作品よりスーサの王アブラダタスと妻パンシアを理想的な男女関係のモデルとして称賛するフラーの姿勢に比する。ネフェルタリとパンシアはともに後宮に生きる女性たちであり、夫であり王とは別の立場や役割を有する。つまりナイチンゲールもフラーも男女が同じ立場や役割において拮抗する関係性ではなく、性別役割分担に賛同し、男女が相互補完的に結びつくことで精神的に〈完全〉な存在へと至ることを最終目的としているのである。フラーはこの考えを保持したが、ナイチンゲールはその後「カサンドラ」において、ヴィクトリア朝社会における結婚は女性には何の利益もないと嘆き、結婚制度そのものを否定する立場に転じる。

4 外国の野戦病院での看護活動

戦地での看護活動といえばナイチンゲールの活動が一番に想起されるが、実はその5年前のイタリア統一戦線では、フラーがベルジョヨージ公爵夫人の統括する病院の看護監督の任についていた。おそらくナイチンゲールがスクタリの野戦病院で従事した看護監督と同種の役割である。しかしフラーには、ナイチンゲールが帰国後に出版した『看護覚え書』(Notes on Nursing, 1860)のような看護指南書に相当する著述はなく、イタリアでの看護活動の内容の詳細は不明である。だが当時の公式書類によると、フラーが勤務していた病院においてもナイチンゲールの告発と同様の問題が発生していたことが明らかになっている(Capper and Giorcelli 241-250)。これは憶測の域を出るものではないが、戦火を避けてアメリカへの帰国の途についたフラーがもし無事にアメリカの地を踏んでいたら、ナイチンゲールに先駆けて当時の野戦病院の現状を発信し、看護行政の重要な提言となったのではないかと考えられる。

そしてもう一点、ナイチンゲールの書である『看護覚え書』およびその後の看護関連著述について、近年興味深い研究報告がなされた。それは、ナイチンゲールの著述には19世紀のイタリア文学2冊からの引用が非常に多く、現代の判断基準では盗用に相当するといえるのである(Festini and Nigro 104-05)。原著はイタリア語だが、英語に翻訳するとほぼナイチンゲールの著述と重複するという。『看護覚え書』はナイチンゲールがクリミアで経験をもとに作成された看護マニュアルであるというのが定説となっているが、もしナイチンゲールが著述通りのケアを行ったのであれば、他者のケア理論をナイチンゲールが実践によってその有効性を証明したに過ぎない。まさにナイチンゲールの独自性に疑問符がつくことになる発見である。

5 結び

このようにナイチンゲールの著述とフラーの著述を比較することにより、両者の活動の軌跡が相似形を描くほどに類似していることが明らかになった。両者の著述活動にはサンドを母とする文学上のレガシーが基盤となっているが、それぞれが分派となっても、ナイチンゲールとフラーには古代への憧憬、家父長制維持、神秘主義への傾倒という共通点があり、フェミニスト的提言を発信しながらも、その背後にはアンチフェミニスト的なバックボーンが存在している。さらに外国の戦時看護活動に従事したという点でも共有の基盤を持つ両者であるが、記録を残さなかったフラーに対し、ナイチンゲールは後世に残る看護指南書を著した。だが、そのナイチンゲールの著述が他者からの借り物を前景化している指摘もあり、今後のさらなる研究課題を提示するものである。

引用文献

- Calabria, Michael D. *Florence Nightingale in Egypt and Greece: Her Diary and "Visions."* State U of New York P, 1997.
- Capper, Charles, and Cristina Giorcelli. *Margaret Fuller: Transatlantic Crossings in a Revolutionary Age.* U of Wisconsin P, 2007.
- Festini, Filippo, and Angelica Nigro. *Before Florence Nightingale: The Italian Nursing Literature from the 17th to the 19th Century.* Translated by Lorenzo Grandi, N.p., 2022.
- Fuller, Margaret. *Woman in the Nineteenth Century.* Edited by Joslyn T. Pine. Dover, 1999.
- Nightingale, Florence. *Collected Works of Florence Nightingale.* Edited by Lynn McDonald, et al., Wilfrid Laurier UP, 2001-12. 16 vols.
- Sand, George. *Lélia.* Michel Lévy Frères, 1867. <https://www.gutenberg.org/cache/epub/39738/pg39738-images.html>.
- Showalter, Elaine. "Miranda and Cassandra: The Discourse of the Feminist Intellectual." *Tradition and the Talents of Women.* Edited by Florence Howe, U of Illinois P, 1991, pp. 311-27.
- サンド、ジョルジュ『スピリディオン—物欲の世界から精神性の世界へ』大野 一道訳、藤原書店、2004年。
- フラー、マーガレット『五大湖の夏』高野 一良訳、未知谷、2011年。